

隼人族の守護神

弥五郎どんが浜下る!

はまくだ



弥五郎どん祭り



今年も秋の風物詩「弥五郎どん祭り」が11月3日、岩川八幡神社を中心に盛大に開催されました。

弥五郎どん祭りは、奈良時代に大和朝廷が隼人を征服した後に、隼人族の御霊を鎮めるために行われたのが由来とされ、県下三大祭りの1つとなっている伝統行事。昭和63年には、県の無形民俗文化財にも指定され、毎年多くの観衆が訪れます。

当日は、午前1時の「弥五郎どんが起きつど〜」のふれ太鼓で祭りがスタート。1年ぶりに目覚めた弥五郎どんを一目見ようと、境内は多くの参拝客で賑わいました。

午後1時からは祭りのメインとなる弥五郎どんの浜下り。子ども達に引かれた弥五郎どんが参道を出て鳥居をくぐると、訪れた観衆から大歓声が上がります。祭りは一気に最高潮に。市街地に繰り出した弥五郎どんが、太鼓衆の迫力ある演奏に乗って、体を左右に揺さぶりながら練り歩く姿はまさに威風堂々。訪れた多くの観衆を魅了していました。



市街地を練り歩く際、唯一の難所、岩川高架橋くぐりは、そのままでは、どうしてもくぐる事が出来ません。それをイナバウアーのような海老ぞりのような格好でくぐり抜ける姿も鳥居をくぐる時と同様、たくさんの観衆が集まり、歓声があちこちから聞かれました。

祭りでは、他にも武道やバレエ大会などたくさん催しが行われ、どれも大勢の人で賑わいました。